

浅間山から鷹巣山へ&石仏を巡る秋のハイキング

開催日：2025年11月15日（土） 晴れ 健脚レベル2 18000歩 約11km

集合：JR小田原駅改札 8時25分

コース：小田原駅東口バス停（箱根町線 8時40分発乗車）→宮ノ下バス停（標高420m）

→箱根登山鉄道宮ノ下駅（赤）→（浅間山コース）→浅間公園→浅間山踏切→富士見台（東屋）→

分岐→浅間山（標高802m）→（湯坂路）→鷹巣山（標高834m 昼食）→（湯坂路）

→国道1号→芦之湯（赤）～国道1号最高地点（標高874m）→石仏群→精進池→石仏群と歴史館跡

→お玉ヶ池→興福院→箱根旧街道→元箱根（標高731m）→元箱根港バス停（赤）（箱根新道線バス）

→箱根登山鉄道箱根湯本駅

参加者：市村L 山田SL 飯倉SL 勅使河原 熊坂 岩元 風間 松本 高津佐 亀田 工藤 佐藤し
高橋昇 稲葉 計14名

宮ノ下駅から浅間山コースを快調な歩きで浅間山山頂へ。ここからは三つの道、まずは湯坂道で鷹巣山を踏破、二つ目は国道1号を歩き石仏群を巡り、お玉ヶ池湖畔は小春日和のピクニック気分、三つめは興福院から石畳道の箱根旧街道を歩き、観光客で賑わう元箱根港へ下山しました。

「素晴らしい秋晴れに恵まれ、真っ青な空に真っ赤に染まった紅葉そして鮮やかな黄色の銀杏、キャンバスに描かれた油絵を見るようなでした」（高津佐さん）、そんな秋の風景を満喫した「浅間山から鷹巣山へ&石仏を巡る秋のハイキング」でした。



9時28分宮ノ下バス停(標高420m)～宮ノ下駅～浅間公園

集合はJR小田原駅改札、大きな小田原提灯が吊り下がっています。全員揃ったところで東口3番バス停へ、8時40分の箱根町港行きに乗車、全員着席できました。国道1号線を西へ、箱根登山鉄道板橋駅前バス停を過ぎて、箱根湯本駅に近づくとつれて渋滞。青空が広がり前方に二子山が見えてきます。箱根湯本駅を過ぎると渋滞が嘘のようにスピードアップ。9時28分、標高420mの宮ノ下バス停へ20分ほど遅れて到着。宮ノ下駅への舗装道路を上ってトイレ休憩、箱根登山鉄道沿いの細い道を進み、浅間公園へ。空気がひんやり、熊坂さんのリードでストレッチ、市村リーダーがコース説明をしました



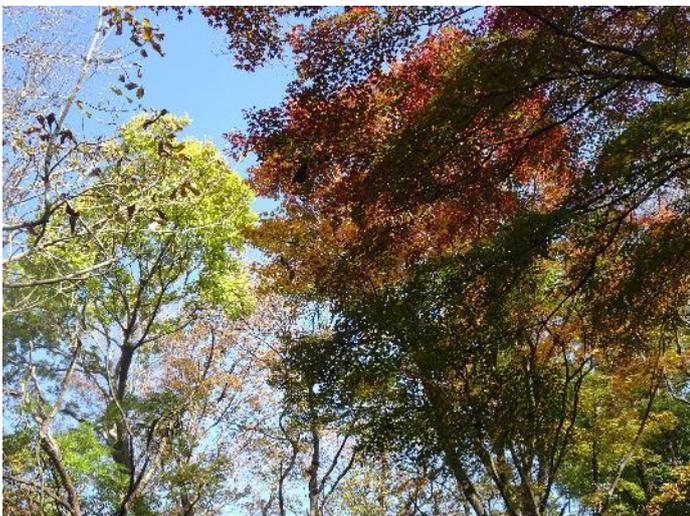
浅間公園9時55分～10時29分富士見台 冠雪した富士山の眺望

9時55分、浅間山公園をスタート。箱根登山鉄道沿いを進んで行くと「浅間山上り口」の標識が出てきて、浅間山までは2.2kmの表示。浅間山踏切を渡って山道に入ると、箱根町が設置した「歩行管理NO.1」があり「50m毎に設置」と書かれています。「ガタゴト」と音がして列車が上って行きました。九十九折の登山道はかなりの急登、NO.8の道標のところで、ひんやりした空気を一杯吸って1回目の小休憩。時折聞こえる列車の音、木々の緑が目優しい土の道の上って10時29分、東屋のある富士見台へ到着して小休憩。みなさんの視線の先は、青空にくっきりと映える冠雪した富士山と緑豊かな箱根の山々です。



東屋10時35分～NO. 32の道標で3回目の小休憩～11時5分分岐

東屋を10時35分にスタート、まだまだ九十九折りの上りが続きます。木製の鳥居前を通過、奥に屋根に覆われている石碑がありました。勅使河原さん、急騰をしっかりと足取りで上って来ます。10時52分、NO. 32の道標のところで3回目の小休憩、地図を見て「もう少しで尾根道に出るはずだが・・・」。休憩地点から3分ほど上るとなだらかな尾根道へ、背丈の高い竹に覆われた竹林ロードです。平らな道のありがたさ、カサコソと落ち葉を踏みしめて足取り軽くなります。NO. 39の道標を通過、青空に紅葉と黄色の葉が映えています。11時5分に分岐へ、真っすぐ進めば千条の滝、左の浅間山へ向かいます。



分岐～11時10分浅間山(標高802m)～金時山が見える絶景ポイント

分岐を左に折れてNO. 40の道標を通過、緩やかな道を下って上って行くと木々の遮りがなくなり青空が広がる場所へ出ました。浅間山山頂へのなだらかな湯坂道を上って11時10分、ススキの穂が揺れる標高802mの浅間山に到着。一山踏破の記念写真を撮影。浅間山コースの60歳標準コースタイムは1時間15分、宮ノ下駅から浅間公園5分、浅間山まで1時間15分、計1時間20分とかなりのペースで上って来ました。紅葉を楽しみながらゆったりと下り、浅間山～鷹ノ巣山間の一番低い所へ。鷹ノ巣山から下りてきたハイカーが、「ここが絶景ポイントだよ」と教えてくれました。金時山が見えたので写真をパチリ。



紅葉と緑の急騰～11時39分鷹ノ巣山(標高834m)昼食タイム

紅葉と緑のグラデーションが鮮やかな急騰の道を上って鷹ノ巣山をめざします。上りきったところに銀色に色づいて来たススキ原が広がっていました。11時39分、標高834mの鷹ノ巣山に到着。「鷹巣城跡」の説明版があり、「鷹巣城は、秀吉の小田原攻めに備えて、北条氏が建築した箱根山の諸城の一つである」と記されています。山頂は日当たりがよく、テーブル席やシートを敷いて昼食タイム。どなたかが「うなぎと金目鯛と銀鮭」の豪華弁当を広げていたのでパチリ。気温は12℃、汗が冷えてきて少しひんやりしてきました。午後のスタート前に、この日2座目踏破を記念して集合写真を撮影しました。



鷹ノ巣山12時13分～湯坂道～国道1号線～12時42分芦の湯バス停

12時13分、鷹ノ巣山から湯坂道を下っていきます。ここから先頭は飯倉サブリーダー、最後尾は午前
に引き続き山田サブリーダー、淡い青のリンドウが咲いていました。下り道の斜面にススキが陽の光に輝い
ていました。山頂から10分ほど下って分岐へ到着、左へ行くと飛竜の滝自然探勝歩道、畑宿へ出ます。こ
の日は直進して国道1号線へ、ここに「湯坂道（鎌倉古道）」の道標が立っていました。ここからは国道1号
線沿いの歩道を上って行きます。東芦の湯バス停を通過、ここからは緩やかな下り。12時42分、トイレ
と併設してバス待合室もある芦の湯バス停に到着。宮ノ下駅を出て初めてのトイレ休憩タイムです。



芦の湯バス停～国道1号の最高地点874m～曾我兄弟・虎御前の墓

東芦の湯バス停の方向から伊豆箱根バス会社のバスが走って来ました。ここは正月の大学駅伝で走る選手をロングアングルで映しだすところ。国道1号線沿いの石畳道を上って行くとススキに覆われているところに出ました。国道1号の最高地点874mの看板が見えます。浅間山、鷹ノ巣山と踏破してきましたが、ここが今回のコースの最高峰、大学駅伝5区の選手は箱根湯本からここまで駆け上がってくるのですから凄いです。国道と反対側には二子山が聳えています。元箱根石仏石塔群入口から背丈の高い竹に覆われた道をくぐりぬけると「曾我兄弟・虎御前の墓」に出ました。左の2基が曾我兄弟の墓、右が虎御前の墓です



二十五菩薩～多田満仲の墓～精進池～六道地蔵

国道1号線の地下道を通り西側へ、元箱根摩崖仏(二十五菩薩)の景色が広がっていました。永仁元年(1293)から順次彫られた摩崖仏群で国道1号の西側に23体あり、東側にも3体見ることができます。少し進んだところに、平安時代に活躍した源氏の祖先の多田満仲の高さ3mの大きな墓がありました。精進池の水面が見え隠れしています。地下道を通り東側へ、元箱根石仏群のシンボルともいえる大きな岩に像が浮き彫りにされた六道地蔵へ出ました。ここにもリンドウの花が咲いていました。



「石仏群と歴史館」跡～笹藪の道～石畳道～お玉ヶ池湖畔

地下道を通り西側へ、精進池の脇を通り「石仏群と歴史館」跡へ出ました。看板に「2023年9月30日閉館」と書かれていました。国道1号を横切りお玉ヶ池をめざします。ここからは山道、笹藪の道を少し上って杉木立の中の石畳道を下ります。歩幅の合わない石畳道、苔むしているところもあり滑らないように注意深く下ります。それでもみなさんしっかりした足取り歩き、六道地蔵からの60歳標準コースタイム25分ジャストでお玉ヶ池北側の道へ下りてきました。お玉ヶ池湖畔に下ります。水面に青空と紅葉と緑が映し出され、この季節にしか味わえない景色を楽しむことができました。



静かなお玉ヶ池湖畔～木道ゆったり散策～丘の上り道

お玉ヶ池の由来は、江戸時代に「お玉」という女の子が奉公の辛さに耐えかねて伊豆の大瀬村に戻ろうと関所破りをして捕らえられ、処刑された首を洗ったために名付けられたと伝わっています。そのような伝説が嘘のような静かな湖畔の木道を、澄んだ秋空の下をゆったり散策。後ろのグループにカメラを向けたら手を振ってくれました。先頭グループは丘の上り道に入ります。マムシ草が赤い実をつけていました。



小張日和のピクニック気分～東屋～お玉観音の興福院

丘の緩やかな上り道、小張日和のピクニック気分です。14時丁度、小高い丘の上の東屋に到着。たくさんのお菓子の差し入れ、紅葉を眺めながら話も弾みます。ゆったりと休憩をして14時10分にスタート。県道の横断歩道を渡り、お玉観音のある興福院へ。ここが絶景ポイント、北左方向に標高1356mの駒ヶ岳、山頂まで伸びるロープウエーが肉眼で見えます。北右方向に標高1099mの二子山、山頂のパラポラアンテナが見えます。高津佐さんが「素晴らしい秋晴れに恵まれ、真っ青な空に真っ赤に染まった紅葉そして鮮やかな黄色の銀杏、キャンバスに描かれた油絵を見るようでした」と話された風景を満喫しました。



箱根旧街道の石畳道～14時25分元箱根～15時発のバスに乗車

興福院を出て箱根旧街道の石畳道を下ります。権太坂は、小田原から箱根路を上る旅人が目前に芦ノ湖を展望し箱根山にきたという旅の実感が伝わってくるところです。次第に自動車の音や人の声が聞こえるようになり、今までの静かなハイキングが一転、観光客で賑わう元箱根へ下りて来ました。時刻は14時25分、海賊船は大勢の観光客を乗せて出港するところです。広場の一角でクールダウン、大分影が長くなりカメラマンの影が写真に入っていました。トイレを済ませて予定より1本早い15時00分発の箱根新道線バス停に並びます。バスは超満員、それでも前方に並んだ山田さんと松本さん、勅使河原さんは座席をゲット。バスは箱根新道を快調に走りましたが、国道1号に出てから渋滞、15時38分に箱根湯本駅へ着きました。



(市村記)